



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた  
「日本伝道の推進を祈る日」です

## 共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを  
2教区（東京は支区）ずつ紹介します。  
全国の教区・教会・伝道所を覚えて  
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは  
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

### 日本基督教団伝道推進 基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」  
振替口座 00140-7-293436

## 祈りの課題

### 東海教区

● 会堂建築を行っている勝沼教会のため。

郵便振替00470-8-7028  
「東海教区事務所」

### 神奈川教区

● 寿地区センターと桜本教会の宣教の働きのために。特に財政的に支えられるように。

郵便振替0260-6-25045  
「寿地区活動委員会」

郵便振替0230-3-56182  
「宗教法人 日本基督教団 桜本教会」

### 神奈川教区

今回は、本教区で路上生活者支援を行うセンターと教会についてご紹介します。寿地区センターの歩みは、1983年に開始した野宿者支援の働きに始まります。1987年に寿地区センターが解説され、寿地区活動委員会が設置されました。センターは、炊き出し、月1回のバザー、この町を知り学ぶための「寿わーく」、ことぶき福祉作業所昼食会、地区内の複数の作業所との連携、居住者の生活支援、夜のパトロール（路上生活者支援）、夏まつり、越冬活動など、多様な活動を生み出しています。

かつての日雇い労働者の町には現代日本の抱える諸問題が表出しています。センターはこの街の人々と共に生きるために彼らを支え、仕えています。

川崎市の桜本教会は、1994年より、さまざまな事情により路上生活を余儀なくされている方々に食事を用意し、共に分かち合うことを続けています。現在はコロナウイルスによるパンデミックの影響で、会堂で一緒に食えることができません。対面の食事からお弁当配食へ移行していますが、

### 東海教区

東海教区は、2016年度から「伝道五カ年計画」として、「日本基督教団信仰告白」の教会についての項目を主題として歩んできました。ただ、5年目の2020年度より新型コロナウイルスが流行し、当教区も感染症流行下での歩みを余儀なくされています。伝道協議会や信徒修養会など、これまで大切にしてきた多くの集会を中止、もしくは延期せざるを得ませんでした。

それでも5月に、神により招かれた者たちがその御前に集まり、信仰によって応答し、神の御心を受けとめる教区総会という

週2回の食事提供は継続しています。

2年半にも及ぶコロナ禍に加え、ウクライナでの戦争による世界的な物価の急騰など、未曾有の危機に次々襲われています。しかし、この働きを通して恵みを分かち合うことは、桜本教会の方々の大きな喜びとなつていきます。それは路上に住む方々と共にささげる礼拝での一人一人の祈りの中にも、はつきりと感じるができます。

これらの大切な働きのため、ご祈祷とご支援をよろしくお願いいたします。

（神奈川教区総会議長 古谷正仁）

教会会議から、それぞれの年度の歩みを始めています。

2022年度は、教区総会で「東海教区第二次伝道五カ年計画」を採択しました。この計画も、「教団信仰告白」を基本とし、その第三段落で告白されている「神の恵みの選び」についての項目を年度ごとの主題にしています。

今年度は、「恵みにより召されたる者の集いとしての教会」という主題で歩むことになりました。これは、私たちが神により召し集められた喜びをより確かなものとするためです。

この6月には3年ぶりに教区婦人研修会が1泊2日の日程で、約130名の参加者を得て行うことができました。会場は再開を喜び合う笑顔であふれ、対面ならではの主にある交わりの豊かさにひたる時が与えられました。やはり私たちは、神の御前に集められることにより力が与えられると確信しました。

まだしばらくは、この新型コロナウイルス感染症下の歩みを余儀なくされるでしょう。しかし主の御前に集められる喜びをもって歩んでまいりたいと思います。

（東海教区総会議長 宇田真）



教区総会で行われる聖餐式の様子



桜本教会のお弁当に並ぶ人たち（左）。寿地区センターによる「越冬炊き出し」（右）

